

(様式Ⅱ)

# 履 歴 書 (記入例)

ふりがな 氏名	おおいた たろう 大 分 太 郎			男・女	現住所	〒870-1192 大分市大字旦野原 7 0 0 番地	(写真) ※大分大学教員の場合は 写真不要
生年月日	平成○年○月○日 (○○歳) ※年齢は任用予定年月日			連絡先 電話番号 E-mail	090-1234-5678 taro@oita-u.ac.jp		
学 歴							
在 学 期 間				学校等名称 (学校, 学部・研究科, 学科, 専攻等)			卒業・修了等
平成○年	○月	～	平成○年	○月	○○県立○○高等学校 ※高校以後のすべての学歴について記入		卒業
平成○年	○月	～	平成○年	○月	○○大学○○部○○学科		卒業
平成○年	○月	～	平成○年	○月	○○大学大学院○○研究科博士前期課程		修了
平成○年	○月	～	平成○年	○月	○○大学大学院○○研究科博士後期課程		単位取得退学
学 位・免 許・資 格							
時 期		名 称 等					
平成○年	○月	学士 (○○) 又は○○学士 (○○大学) ※学士以上を記載。平成3年3月までは○○学士, それ以降は学士 (○○) となる。					
平成○年	○月	博士 (○○) 又は○○博士 (○○大学 第○○号)					
平成○年	○月	○○免許 (第○○号) や日本○○科学会○○認定医 (第○○号) など					
職 歴							
在 職 期 間				勤 務 先		職名 (職務内容, 雇用形態)	
平成○年	○月	～	平成○年	○月	在家庭		—
平成○年	○月	～	平成○年	○月	○○大学○○部○○コース		助教 (教育研究, 正職員)
平成○年	○月	～	平成○年	○月	米国○○大学○○センター		○○研究員 (研究, 有期職員)
平成○年	○月	～	平成○年	○月	○○大学○○部○○学講座		准教授 (教育研究, 正職員)
年	月	～	年	月	※全ての職歴について記入する。		※行が不足する場合は適宜追加してください。
賞 罰・処 分 歴 等							
時 期		内 容					
平成○年	○月	日本○○学会 ○○賞 受賞					
年	月	※公的機関, 学会, 出版社等からの表彰, 職務上の表彰, 懲戒処分等 (セクハラ, 研究費不正等) を記入					
年	月						

本書類の記載内容については事実と相違なく、虚偽の記載があった場合には、採用取消や懲戒処分等の対象となり得ることについて了承します。

令和 年 月 日

氏 名

印

## 【記入上の注意】

- 年齢は、任用予定年月日で記載してください。
- 写真欄は、大分大学教員の場合は不要です。
- 学歴の欄は、高校卒業以後のすべての学歴について記載してください。
- 職歴の欄は、最終学校卒業等の月の翌月から、空白期間がないように記入してください。なお、在宅期間については、勤務先の欄に「在家庭」と記入してください。
- 賞罰・処分歴等欄には、公的機関, 学会, 出版社等からの表彰又は職務上の表彰や懲戒処分 (研究費の不正受給に係る処分等) を記載してください。また、過去に学生に対するセクシュアルハラスメントを含む性暴力等を原因として懲戒処分若しくは分限処分を受けた場合には、処分の内容及びその具体的な事由を必ず記入してください。なお、該当する事項がない場合は、時期欄は無記入にし、内容欄に「なし」と記載してください。

氏 名 大 学 太 郎

[illegible]

## (様式Ⅲ－１)

提出年月日 令和〇〇年〇〇月〇〇日

業 績 目 録 学位論文, 原著, 症例報告, 総説, 著書等, 主要学会での発表の別に,  
それぞれまとめ, 古いものから発表順に記載してください。 氏 名 大 学 太 郎

類 別	番号	著者名(発表者名)全員の氏名を記載順に記入し, <u>本人の氏名にアンダーライン</u> を付してください。 なお, ファーストオーサーが複数である場合は, ファーストオーサーの著者全員の名の左上端に「#」 印をつけ, 著者名記載の後に「(# equal contribution)」と記載して下さい。 また, 全ての corresponding author の左上端に「*」印をつけてください。 学位論文(題目・誌名・巻・初頁～終頁・年・インパクトファクター), 原著(題目・誌名・巻・初頁～終頁・年・インパクトファクター・査続の有無), 症例報告(題目・誌名・巻・初頁～終頁・年・インパクトファクター・査続の有無), 総説(題目・誌名・巻・初頁～終頁・年・インパクトファクター・査続の有無), 著書等(分担項目名・書名・初頁～終頁・発行所・年・査続の有無), 主要学会での発表(題目・会名・年; シンポジウム・特別講演等の別)
学位論文	○	* <u>大学太郎</u> . 〇〇〇〇〇における△△△△の形態計測的研究 —××××学的所見との関係— 臨床神経 20:31-39, 1982
原著	1	* <u>大学太郎</u> . 〇〇〇と△△△△との関連. 九州神経精神医学 7:263-266, 1992 査続: 有無
	2	* <u>Daigaku T.</u> , Oita J., Monka S. Stemlin he.....of .... DNA in he..... carcinoma. Am. J. Surg. Pathol. 10:789-794, 1994. (IF:〇〇) 査続: 有無
	③	#Oita J., # <u>Daigaku T.</u> , Monka S. Human uuu.... imm....RNA....factor.... cancer cells. J. Cancer 19:452-458, 1995. (# equal contribution) (IF:〇〇) 査続: 有無
	④	Oita J., Monka S., * <u>Daigaku T.</u> Abnormal hu..... imm..... to mu.....Stimu.... in .... with lung cancer. Cancer 69:2252-2257, 1996. (IF:〇〇) 査続: 有無
	⑤	* <u>大学太郎</u> . 〇〇〇〇からみた薬剤の△△と××法: 髄膜炎 (〇〇性・△△性・×××性). 医学と薬学 22:801-809, 2001. 査続: 有無
症例報告	1	* <u>大分二郎</u> , <u>大学太郎</u> , 文科省一. 〇〇〇〇を認めた△△△△硬化症の2例. 神経内科 31:104-108, 1993. 査続: 有無
総説	1	Oita J., <u>Daigaku T.</u> 〇〇性△△炎. ×××科ハンドブック (山田◇◇編), 150-250, 南江堂, 東京, 1992. 査続: 有無
	②	* <u>大学太郎</u> , 大分二郎. Port..... sh..... Pit... and Comp... in the Dia... Disease (ed. by N. J. Ly.... and M. Ma.....), 475-484, Georg Thieme Verlag, N Y, 1993. 査続: 有無
著書等	1	<u>Daigaku T.</u> , Monka S. Mucosal..... against bacterial ..... in the nose. VIV World Congress of .....gy Head and Neck Surgery, Round Table, 1989, Madrid, Spain. 査続: 有無
学会発表	1	<u>大学太郎</u> , 山田花子, 文科省一 〇〇〇〇〇領域レーザーサーミア臨床の△△△△に関する研究. 第×回レーザーサーミアシンポジウム 1995. 8. 犬山市.
	2	<u>大学太郎</u> , 〇〇〇〇〇における△△△△△と×××××の変動について. 第〇〇回臨床△△学会総会 1998. 10. 千葉市.

その他	1	<p>一般演題 上記ほか〇〇回</p> <p>大分二郎, <u>大学太郎</u>, 文科省一. 〇〇〇〇を行う△△△△システムの検討. 神経内科 31 : 104-108, 1993.</p> <p>(全ての業績)</p> <p>原 著 77編 (和文50編, 内ファーストオーサー17編) (欧文27編, インパクトファクター計〇〇点) (内ファーストオーサー 8編, インパクトファクター計〇〇点) (内コレスポンディングオーサー 2編, インパクトファクター計〇〇点)</p> <p>症例報告 10編 (和文 5編, 内ファーストオーサー 2編) (欧文 5編, インパクトファクター計〇〇点) (内ファーストオーサー 1編, インパクトファクター計〇〇点) (内コレスポンディングオーサー 1編, インパクトファクター計〇〇点)</p> <p>総 説 25編 (和文15編, 内ファーストオーサー 7編) (欧文10編, インパクトファクター計〇〇点) (内ファーストオーサー 8編, インパクトファクター計〇〇点) (内コレスポンディングオーサー 〇編, インパクトファクター計〇〇点)</p> <p>著 書 等 30編 (和文20編, 内ファーストオーサー15編) (欧文10編, 内ファーストオーサー 5編)</p> <p>そ の 他 2編 (和文 2編, 内ファーストオーサー 1編) (欧文 0編, 内ファーストオーサー 0編)</p> <p>シンポジウム, 特別講演等 25回 (内トップネーム 20回)</p> <p>一 般 演 題 国際学会 30回 (内トップネーム 25回) 国内学会 50回 (内トップネーム 39回) 地方学会 15回 (内トップネーム 12回)</p>
-----	---	--